

SDGs 未来都市の選定

課題解決に統合的に取り組む自治体として、7月1日に国（内閣府）から「SDGs 未来都市」（全国で31都市）に選定されました。また、その中でも特に先導的な取り組みで、企業や教育機関などとの連携を通じて地域の新たな価値や、自律的好循環の創出が見込める取り組みであるとして「自治体SDGsモデル事業」（全国で10都市）に選定されました。



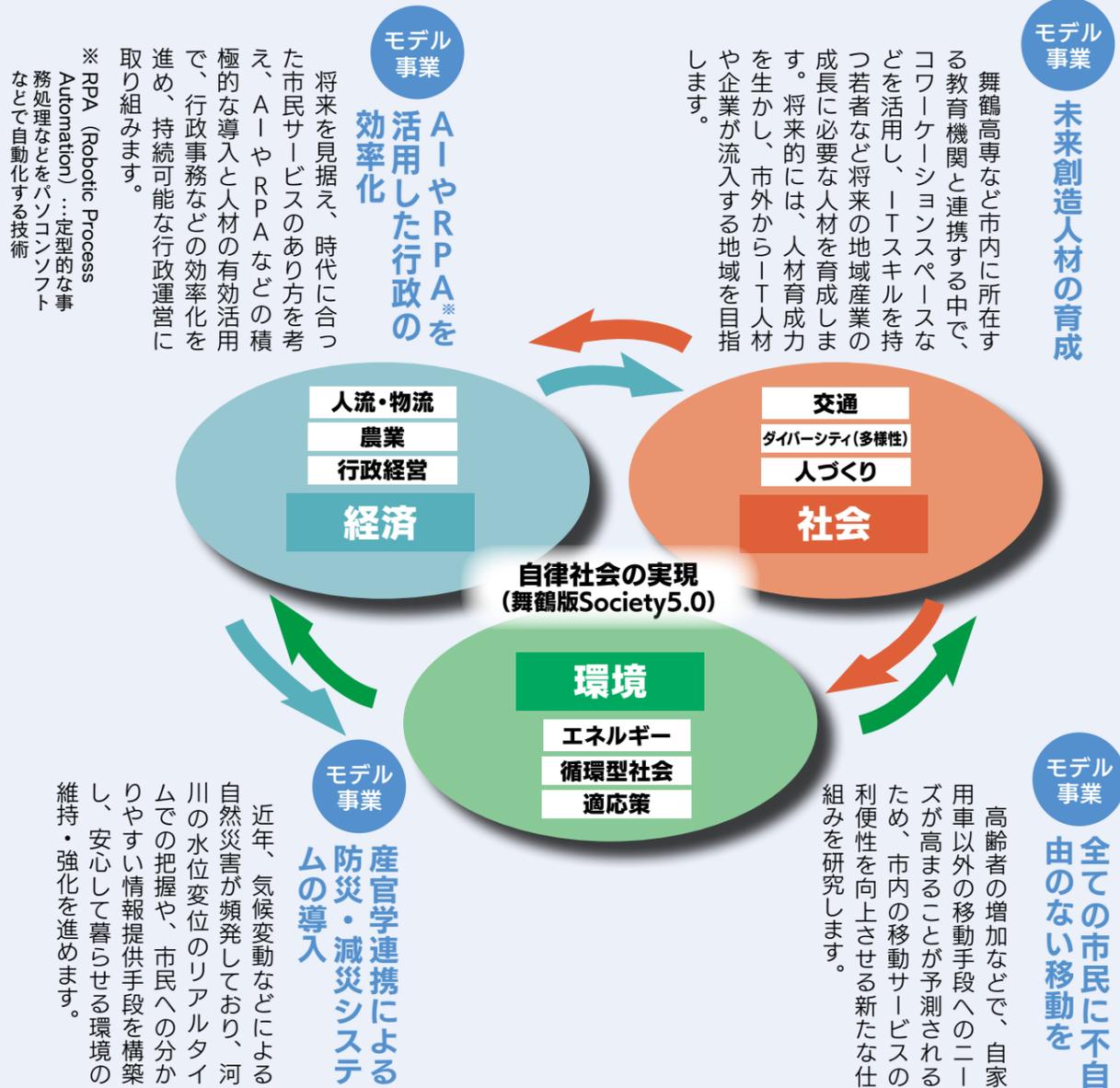
▲安倍内閣総理大臣が参加した授与式の様子（7月1日、首相官邸）

《企画政策課》
※ 選定されたモデル事業などは、市ホームページでも公開しています。右コードからアクセス可。



ヒトモノ情報

あらゆる資源がつながる“未来の舞鶴”



2030年の世界

17の世界共通目標

SDGsで未来が変わる!

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現」

SDGsとは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略で、2015年の国連サミットで、日本を含む193の加盟国の全会一致で採択された「世界を変えるための17の目標」です。貧困や不平等・格差、気候変動などのさまざまな問題を根本的に解決し、よりよい未来をつくることを目指し、2016年から2030年までの15年間で、世界中の国々がSDGsの達成に向けて取り組んでいくこととなっています。

SDGsは各国政府をはじめとする行政機関だけではなく、企業やNPOなどを含め、世界の全ての人が課題解決に主体的に取り組むことが求められています。

国では、2016年5月に内閣総理大臣を本部長とするSDGs推進本部が立ち上げられ、関係省庁が連携し行政機関や企業、各種団体などの取り組みを積極的に支援しています。

本市では、総合計画に掲げる将来のまちのありたい姿「便利な田舎ぐらし」を目指し、民間企業や教育機関などとの連携やAI・ICTなどの先進技術を積極的に導入し、舞鶴版SDGsの実現に取り組んでいきます。

